

第8回 下水道管路の包括的民間委託検討部会	
日 時	令和4年5月30日(月) 14:00~15:10
開催場所	WEB開催
出席者	滝沢部会長、川北委員、高橋委員、原委員
欠席者	鴨志田委員
開催形態	公開
議 題	1 包括的民間委託の実施状況と振り返り 2 今後の中大口径管の調査に向けた論点整理
議 事	<p>開 会</p> <p>1 下水道管路部長挨拶</p> <p>○横浜市 包括委託については昨年度から検討部会において審議していただき、昨年4月に契約となった。包括委託の現状について報告する。今後の下水道管路の維持管理や公民連携のあり方等について議論をお願いします。</p> <p>2 資料確認</p> <p>○事務局 次第 Word 資料1 第8回検討部会説明資料 PPT</p> <p>3 会議成立の確認</p> <p>○事務局 鴨志田委員は所用のため欠席であるが、5名中4名の委員が出席であり、過半数を満たしているため、本日の検討部会は成立。</p> <p>検討部会の委員に変更はないが、横浜市下水道事業経営研究会の期間が更新となったため、改めて部会長の選任が必要となる。委員に変更がないため引き続き部会長を滝沢委員にお願いしたい。</p> <p>○部会委員 異議なし。</p>

議 事（資料の説明については省略）

1 包括的民間委託の実施状況と振り返り

○事務局 資料1 議題1 「包括的民間委託の実施状況と振り返り」に基づき説明。

○高橋委員 説明資料は簡潔にまとまっている。スライド P14、課題解決に向けて具体的に進めているものはあるか。

○事務局 事務局としての課題を3つ挙げた。まず、2件で18億円の契約金額のうち、緊急業務については想定した業務量を設定し上限額を設けている。1年間の結果では想定したほど不具合が出てきていない。想定よりも緊急的な業務量が少ないため、緊急業務と調査業務と相殺する等を検討する必要があると考える。進捗管理の透明性確保について、包括委託のため、進め方について受託者に裁量があるが、受託者に任せるだけではなく、定例会議を開くなど進捗管理の改善を図っている。緊急時等、業務が重なっていると責任者1名では連絡が取りにくいことがあった。複数の連絡担当者を設定する等改善を検討したい。

○高橋委員 想定数量より不具合が少なかった場合に無駄な帳尻合わせのないような仕組みを検討してもらいたい。

○事務局 有効に業務を進められるように運用していきたい。

○原委員 スライドp11、12について今回の検討部会において包括委託の実績を評価することが目的ということで良いか。

○事務局 検討部会で導入に向けた議論をしていただいた包括委託について、昨年度の業務内容を報告し、導入時に本市が期待していた導入効果が達成されているかについてご意見をいただきたい。

○原委員 期待していた導入効果を評価することについて、2つの視点が考えられる。①提案いただいた内容に沿って業務が進められているか。②公募条件の設定が適切であったか。過去の実績と比較する場合は公募条件で設定した業務量等その他の条件の内容によることになる。①、②2つの視点を分けて考えていくと良いかと考える。

○事務局 承知した。新しい取り組みを検討すると、これまで実施してきた業務内容を包含した内容となってしまう。今回、包括委託の導入時に民間企業より提案をいただくことにより、民間の視点も取り入れた業務内容を検討することができた。公募条件の設定の良し悪しについても分析し、幅広に考えていきたい。

○滝沢部会長 包括委託を導入して、効率化や短縮化が図られた内容や延長が伸びた理由はどのようなものかを分析すると良いと考える。

○事務局 詳細調査に伴う異常箇所では、これまでの個別委託では委託終了後に別途修繕工事を発注していた。包括委託では委託内で確認された異常について、同委託内で直すべきかどうかも含め検討している。調査業務の責任感が増すとともに、意思決定のスピード感が個別調査に比べ効率的に進められていると考える。導入効果について分析した内容を次回お示しする。

○川北委員 両方同じJVの場合での弊害や課題はあったか。例えば同じJVでは競争原理が働かないことや新たな技術の導入が停滞する等が考えられる。

○事務局 評価は北2者、南1者の評価の結果として南北同一体制で同レベルでのサービスが提供できている。市民目線では居住地によってサービスの差が出ないことが望ましいと考える。一方で新しい知見を得ることが難しくなることについては認識していく必要がある。市全域を1者で賄うことは難しいのではないかとのご意見が検討部会でしたが、現状は緊急業務なども含め問題はないと考えている。ただし、今後は競争原理の視点を取り入れることは必要であると考えている。市内企業の技術習得、市内経済と技術の活性化も責務として考えている。それらをバランスよく実施できるように検討する必要がある。

○滝沢部会長 同一サービスの提供と競争性は相反する。今後も同じJVとなると競争原理が働かない。そのようなことも踏まえ、引き続き検討していただきたい。

2 今後の中大口径管の調査に向けた論点整理

○事務局 資料1 議題2「今後の中大口径管の調査に向けた論点整理」に基づき説明。

○滝沢部会長 令和6年度以降は必ずしも包括委託ではないとのことであるが、説明資料より個別委託と包括委託で進捗に大きな違いがある。令和9年度までに1,500kmの中大口径管の調査を終わらせるには個別委託でも進捗的に完了できる見込みはあるのか。

○事務局 過去3年間の個別委託の結果でも年間150kmの9割程度の実施ができていたので見込みはあると考える。包括委託で今回報告した181kmの進捗について、1年目は調査を先行して実施した。これから修繕等の緊急業務も本格化するため、今後の進捗状況をよく確認し、いかに効率よく調査から修繕まで実施して行くのかについても重要であると考えている。

○原委員 激甚化する豪雨への対応を課題に挙げているが、調整池や貯留管の維持管理については中大口径管の維持管理とは異なる技術的な対応が必要となるのではな

いかと思うが、施設の製作および管理を委託するつもりか。

○事務局 現状の枠組みの中で全く同じように維持管理業務を進めるのではなく、少しずつ発展させながら進めても良いのではないかと考えた。中大口径管の維持管理についてしっかり運用ができているため、対象施設を広げる等、幅広に進めるか、引き続き粛々と同様の業務内容として進めた方が良いのかについてもご意見をいただきたい。

○原委員 今回の包括委託の対象施設としては河川付近の放流管は入っているが、フリップゲート等が入っていないということで良いか。

○事務局 その通りである。

○原委員 管路施設とゲートで維持管理等の技術的な面で共通する部分があるのか。

○事務局 ゲート施設としては少し外れている部分がある。現在実施している管路施設の状態把握はカメラや目視で判断している。ゲート施設は機械設備（スルースゲート等）もあるため、目で見ただけではなく、操作性の確認も必要となる。技術的な面で幅を広げることが必要となる。課題を解決していく中で中大口径管と合わせて状態を把握することが適切かどうか相談したい。

○原委員 技術的に異なるのであれば他の分野の企業の参入が必要となる。技術的な難易度や関連性を比較して検討するべきかと考える。

○事務局 対象施設の拡充と既存業務の効率化は一体ではないため、有効な検討内容についてご意見をいただきたい。

○原委員 今後の進め方についてサウンディングは実施するのか。

○事務局 必要に応じて、サウンディング調査も実施する。

○川北委員 提案書の評価の際に設定していた技術レベルが評価内容に適する技術レベルであったのか考える必要がある。当時設定した技術レベルは現在の包括委託としては標準であったのか。

○事務局 導入時に検討していたのは各々個別の業務に特化した企業がJVを組み参入すると考えていた。しかし、JV構成員の大部分の企業が複数業務を実施することができるJVであり、より効率的に業務を進めることができていると考えている。包括委託に参入していない市内企業との連携をどのように実施して行くかについて今後検討していく。

○川北委員 効率的に業務を進めることや全市域で同一レベルのサービスを提供することは市内企業を育成することとはトレードオフとなる。どちらに重きを置くかを

検討する必要がある。

○事務局 検討し、お示しする。

○高橋委員 技術的な面など市が要求する仕様を固めておかないと軸がぶれてしまう。市内企業で市が求めている内容を実施が見込める企業はあるのか。

○事務局 どの程度まで実施するかによる。今後のサウンディング等で市が求める内容と実施することができる企業について探っていく必要がある。市として今後の方向性を整理し、維持管理に何が必要か検討する必要がある。

○高橋委員 コスト面も考え効率的に業務を実施することに留意しながら、市内企業の採用について前向きに考えると良い。

○事務局 行政としてはコスト面の検討も重要である。今回は技術提案をメインに考え、プロポーザル方式で受託者の選定を行った。今後はもう少しコスト面も考えて受託者を選定する方法等について市内でも議論していきたいと考える。

○滝沢部会長 ゲートに関しては構造的に管路と異なるものであり、大規模な洪水が発生した際に影響する設備である。他の管路施設と合わせて出すべきか、よく検討したほうが良い。特殊な構造のものがある場合、対応可能な企業が少ない場合も考えられる。普段の操作等、維持管理についても留意してうえで最適な体制の検討が必要。緊急時に地元企業が構造を熟知しており、いざというときにすぐに対応できる体制を整えることは強みになると考える。

○原委員 どの様な企業に参入してほしいか検討する際に WTO にかかるのかよく考える必要がある。

○事務局 WTO に関してよく確認したうえで、主たる業務と履行体制をしっかりと検討し進めたい。

○事務局 今回は包括委託の契約後、1年経過した状況の報告と今後の進め方について議論していただいた。中大口径管の維持管理の方向性について検討する時期に差し掛かっているので、今回いただいたご意見を踏まえ、次回までに枠組みの検討をし、お示ししたものについてご意見をいただきたい。

○事務局 次回は秋頃の開催を予定している。別途事務局からご案内をさせていただく。開催方法についても相談させていただきながら進めたい。

閉会

資 料	資料1 第8回下水道管路の包括的民間委託検討部会 説明 PPT
-----	---------------------------------